

—農場紹介—

## 新冠町有牧野

〈所在地〉

北海道新冠郡新冠町字東川

〈牧場形体〉

通年：肉牛黒毛和種（町有牛）繁殖肥育一貫生産

（繁殖親牛85頭・肥育牛50頭・育成子牛

約50頭・哺乳子牛約30頭）

夏期：町営乳肉用牛預託放牧（乳牛約200頭・肉牛約250頭）

\* 黒毛和牛は経産牛の預託も多い

〈牧場面積〉

牧場面積：約680ha（放牧草地約250ha・牛舎施設用地・山林野草地）

\* 採草地約50haの一番牧草は乾草とラップサイレージ生産・2番牧草から放牧利用

〔アースジェネターは和牛育成子牛の健康維持や悪臭低減による牛舎環境改善のため3年前から給与しています。町有牧野管理担当の清川さんに黒毛和牛一貫生産の工程について聞きました。〕

▽ 繁殖親牛（約85頭）

繁殖牛舎とパドックで管理（夏～秋は放牧）

ラップサイレージ給与（冬期）

平均分娩間隔370日

▽ 分娩親牛

分娩予定の約半月前から分娩牛舎で管理

（分娩牛数頭が同居）

分娩前約1.5ヶ月前から分娩後約3ヶ月まで配合飼料2kg給与



▽ 分娩子牛

約90日間親に付けて管理

母乳とスターター給与

子牛の疾病状況や親の気性などで一部は

親から離して人工哺育

消化不良から下痢発症が課題

（飼養過密ストレスあり）



アースジェネター給与

▽ 離乳子牛

離乳子牛群で約1ヶ月間馴致  
離乳ストレスや群ストレスで体調不良を  
起こしやすいので集中的に観察



アースジェネター給与

▽ 育成子牛

分娩後4～5ヶ月齢で育成群入れ  
1群（8～10頭）を育成牛舎とパドックで管理  
一番乾草飽食  
配合飼料は去勢最大4kg・メス3.5kg  
母牛の能力確認のため牧場肥育用保留牛（初産  
子牛中心・一部2産子牛）と育成素牛として選別



▽ 肥育牛

肥育牛舎で管理 28～30ヶ月齢出荷  
平成21年1月～12月29頭出荷  
MBS平均7.6  
上物率93%  
肥育成績の比較的情報の少ない種（新しい  
種など）の肥育成績を町内肉牛生産者に  
情報提供



今後は肥育成績の良い母系の受精卵を選別し地域生産者へ供給を検討中

〔町営施設のため限られた予算、人員、施設での牧場運営ですが清川さんや牧場職員の皆さんは常に飼養管理を工夫する生産意識を持ち生産向上を図っています。和牛繁殖肥育生産事業と合わせて夏期の育成牛放牧預託事業発展のため将来に向けて道外育成牛受け入れの計画などを進めています。〕